
ロード契約事務所

ジュリア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ロード契約事務所

【Zコード】

Z7706C

【作者名】

ジュリア

【あらすじ】

都会の中にひっそりと佇む「ロード契約事務所」この事務所は依頼人の願いを聞き入れ、契約を持つて「手助け」をする。事務所は力を貸してくれるだけ。ことは自分で解決しなければならない。そして今日も、この扉を開く者が…

CASE - 0 事務所の起こり（前書き）

プロローグです。これでは話の視点が「ロード」ですが、本編では依頼人視点となります。

「…暇だ。」

ここは悪魔の住む「心魔界」

ちなみに言つておくが悪魔といつても三種類ある
まず好戦的で血を好む「魔神族」、よくゲームで魔王と言われている
のは大抵こいつ等だ。

次に人間の魂や精神を吸い取る「吸魔族」、サキュバスなどの淫魔
もこの部類に入る。

最後に、人間と魂を対価に契約する「契魔族」、知能が最も高く、
心魔界を治めているのはこれだ。

そして、その頂点に君臨するのが「魔帝」つまり俺である。
魔帝は上の三種類の悪魔の特性を全て持ち、生れ落ちた瞬間から魔
帝なのだ。

10000年に一度新しい魔帝が生まれ、それまで魔帝だった者は
死ぬ。

魔帝には名前が無い。つける必要が無いし、それを呼ぶものもいな
い。

とは言つたものの、やつぱり名前がないと今後筆者が困るだらうか
ら「ローデ」とでも呼んでくれ。

とりあえず俺は心魔界の中で一番偉い訳だが、宿命的に暇なのだ。
天使との戦争が昔あつたが、先代がうまく天使を丸め込んで戦争は
終結している。だからといってこっちから仕掛ける気は無いし、そ
こまで俺は愚かではない。

俺の部下には優秀な契魔が沢山いるわけで、面倒な仕事はやつらがやつてくれる。

「あー暇だ」

俺が生まれてからもう2000年も経つ。楽しみといえば、俺の任期中に出来た「地球」とか言う星の「人間」を眺める事。

「地球」には、人間以外に知能を持つた生命はまだいないうらしい。

「よし！暇だから地球に遊びに行く事としよう。」

俺は近くにいた副官に

「100年くらい遊んでくる。その間の『たごたは任せた！』と言つて地球へと降り立つた。

「さて何をするか…」

そういうえば契魔の真似事を前からしてみたかったな。

「よし。とりあえず探偵事務所みたいな感じでやつてみるか。」

俺はとりあえずその辺にあつた廃ビルを直して、その2階に事務所を構えた。その名も

「ロード契約事務所」

CASE - 0 事務所の起こり（後書き）

皆さん、こんにちは、ジュリアです。

相変わらず一話あたりが短くなってしまいそうです。忙しくて一日一話更新は難しくなりそうですが、それでも気長に待っていてくれると嬉しいです。それではまた。

CASE - 1 不運

Name; 小沢 美奈子
Ozawa Minako

Occupation; Hig schooler

Country; Japan

Age; 16

Sex;

「何でこうついてないんだね?」

私は小沢美奈子。高校一年生にして不幸街道まっしづらなこの頃…

昔から私は何かにつけて運が悪い。

この運の悪さは生まれた時から付きまとつていろいろ。

私が生まれてからすぐ両親が死に、親戚が事故り、祖父母は病氣で寝たきり。

引き取り手がいなかつた私は、養子としてどこかの家に引き取られるも、一年以内に何らかの不幸が襲う。それは火事だつたり、地震だつたり、交通事故だつたり…

なんとか中学を卒業し高校を受験すると、試験当日に盲腸で入院。

そのころの里親の努力もあ

り、何とか高校に入れたものの、その高校が不審者に襲撃され7人も死ぬこととなつた。その頃里親の会社が倒産。同時に私は一人暮らしを始める。

一通りの事故に遭い、懸賞などは当たつた事がない。この運命的な悪運はいつまで続くんだろ

うか：

「家帰つても何にも無いし、その辺を散策するかな。」

この辺の商店街はよく店が倒産する。倒産しては新しい店が入り、また倒産してはまた新しい店が入るのだ。日増しに新しくなつていく商店街は見ているだけでも楽しい。

「…あれ？こんな所に何か出来る。」

この前まで廃ビルだったのにもう新しくなつて。工事してる所見たこと無いのに。

「まあいいや。えーっと…

式階 ロード契約事務所 貴方の願いを助けます。いかなる願望でも手助けいたします。

だつて…変なの」

（いかなる願望でも…か。面白そうだな。行ってみようか）

私は中へと入つていった。

「すいませーん。誰かいらっしゃいますか？」

…しーん

「なんだ居ないのか」と帰ろうと後ろを向くと、

「御用ですか？」

そこには、20代前半くらいの青年が立つていた。整った容姿に黒髪、紅い眼をもつたどこか怪しげな雰囲気をかもし出す人物がそこにはいた。

（いつから居たんだろう？後ろに人が居た気配なかつたのになあ）

「『心配なさい』。散策から戻つてただけで『それこまか』
『え？』

（読まれた？）

それにしても見た目と話しがかけ離れてるなあ
さて、御用ならば中のソファーにでもお座りください
「あつはい」

（立つていてもあれだ。とりあえず話を聞いてみるかな
と、ソファーに座るとまもなく

「『一ヒーでもどうだ』」

「ありがとう』『それこまか。あの…』

「何でしじう？』

「貴方は…？』

「私は『』の事務所の所長のロード。と言つても私しか居ませんが
ね。』

「あと、『』って一体何なんですか？』

『』で率直に聞いてみると、待つてましたかと言づかのよづに説明
を始めた。

「『』は、依頼人の願いを叶える手助けをする事務所になつていま
す。『』では、正しいとか間違つてるとかは関係なしに、純粹に
あなた方の願いをかなえるためのお手伝いならいくらでもします。
たとえば、貴方が誰かを殺したいとします。そのときに、犯行のブ
ランや凶器の用意、必要な能力の提供など等。私は直接手を下しま
せんが、貴方の願いに必要なものは全て提供いたします。貴方は何
通りかかるプランの中から好きなものを選択できる権利もお持ちで
す。もちろんその対価はいただきますがね。』

「対価つて一体…？』

「寿命の一部と、死んだ後の魂の自由をいただきます。』

「…へ？』

（まったく意味が分からない。寿命？魂？どこの世界の話？）

「まあ、依頼して死ねば分かる事です…』

「…どんな依頼でも。と言つてましたけど、本当にどんな願いでも叶うんですか？」

「ええ。まず叶うでしょ。」

「じゃあ例えば、運勢を逆転させたい…とかも？」

「ええもちろん。それが貴方の願いですか？」

（つづ銳いなあ。それにしてもどうしようか…かなり胡散臭いけど、話が本当なら人生が変わる。この悪夢のような人生が変わるんだ。）

私が考えていると、ロードはそれを察したかのように

「運勢の逆転、その依頼なら無料で承りますよ。魂の束縛も無しと言つ」とです」

「本当にですか！？」

「私は嘘は嫌いです。」

「じゃあお願ひします。」

そういうとロードは口元で微かに笑つた。

「では、こちらの契約書にサインを」

とロードが渡した紙には、でかでかと「契約書」とかかれ、「依頼品・運気反転プログラム×1回 以上 報酬：無償」と並んでいた。

私は迷わず渡されたペンを滑らせると、ロードに渡した。

「承りました」

と彼が言うと、頭に謎の機械を取り付けられた。

（これが運気反転プログラム？？？）

「これで貴方の明日からの運は180度変わります。それではGOODLUCK」

そこで私の意識は闇へと引きずり込まれていった。

朝

「はつ、朝か…」

自分の部屋、自分のベッド、見慣れた風景。そこは、昨日の事務所ではなかつた。

（昨日は変な事務所にいた気がするんだけど、夢かなあ）

と、時計を見ると、バス出発10分前

「げつ、マズイ遅刻だ！」

急いで身支度を整えると、猛ダッシュでバス停へ。普通に行けばバス停へは3分かかるのだが、大抵何かがあつて15分くらいしかつてしまう。しかし

（あれ？今日はいやに順調だなあ）

なぜか今日はなんのアクシデントも無くバス停に着き、バスも渋滞なしに学校の近くまで走った。

今日は全てが順調だつた。例えば、朝のごたごたで宿題一式忘れてきてしまつたが、全ての先生が宿題の存在を忘れていたため難を逃れたり、テストでは、開始5分前に勉強した部分がそのまま出たので楽勝だつたとか、すごく運が良かつた。

（やつぱり夢じゃなかつたんだ！しつかり運勢が変わつてる！）

その後私は、宝くじを買い続けていた。そしてそれは必ず一等3億円で、宝くじがあることに私は大金持ちになつていつた。世間では何らかの不正があるとか騒いでいたけど、そんなものあるわけが無い。ただ運がいいだけなんだから。

そして私は、持ち前の運のよさを發揮して、様々な分野で活躍した。私の人生はまさに絶頂を迎えていた。

しかしそれは突然終わりを迎える事となる。

ある日私は、不健康な生活のせいか、風邪をひいてしまつた。病院にいって「ただの風邪です」と風邪薬を飲んで寝ていた。しかし風邪が治ることは無く、症状は悪化した。風邪をこじらせ、高熱で体の細胞がやられ、回復は絶望だと思つた。

最後の瞬間、私は思つた。

（運が良くなつたんじゃなかつたつ…）

「愚かな女だ。」

事務所でロードは窓をぼんやりと見ながらつぶやいた。

「どんな事故、病気や災害にあっても死なない運のよし、それを反転させたばかりに…風邪で死んだのはある意味運が良かつたのか

…」

「どんなに俺が手助けしようと、本人が努力せねば意味がないというのに。」

CASE - 1 不運（後書き）

こんにちは、ジュリアです。今回はなんとなく漠然としてしまいましたが、次はこうならないようにしたいと思います、御意見御感想をどしどしお寄せください。できる所から改善していきたいと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7706c/>

ロード契約事務所

2010年10月10日04時48分発行